

授業科目名 (英文表記)	熊野郷土学 2 D ～紀伊半島大水害から10年の地域振興～ (Kumano hometown study 2 D)		東牟婁地域 串本会場
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義
担当教員	此松 昌彦、江種 伸之、出口 竜也、竹林 浩志、森重 良太、ゲスト講師		
実施場所	東牟婁地域 南紀熊野ジオパークセンター(串本町潮岬2838-3(潮岬観光タワー西隣))		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	①10月2日(土) 13:00～17:00	教育学部	此松昌彦
	②10月16日(土) 13:00～17:00	システム工学部	江種伸之
	③10月30日(土) 13:00～17:00	非常勤講師	森重良太
	④11月20日(土) 13:00～17:00	教育学部	此松昌彦 (ゲスト:福島大輔氏)
	⑤12月18日(土) 13:00～17:00	観光学部	竹林浩志 (ゲスト:永山卓也氏)
	⑥1月22日(土) 13:00～17:00	観光学部	出口竜也 (ゲスト:藻谷浩介氏)

【授業のねらい・概要】

「熊野郷土学 2 D」では、熊野郷土学において、今まで学んだ自然、文化、歴史、民俗、災害史、だけでなくエコツーリズム、郷土食、ジオパークという観点から価値のある地域の人の暮らしを学んできた。それを活用して持続可能な地域へしていかななくてはならない。最終シリーズとして将来への可能性考えることをテーマにする。そのために他地域と比較しながら、どんな将来を描けるかを考えていく。地域の価値を高めるため、紀伊半島大水害からの教訓、地域資源としての南紀熊野ジオパーク、(株)南紀白浜エアポートからの観光戦略、地域資源の商品化、地域づくりなどを総合化して、未来の熊野地域を考えていきます。学生、自治体職員、地域づくり関係者、観光商工関係者、地域ガイド、ジオパーク関係者、教育関係者、Uターン者など、幅広い分野からの受講を期待します。

【授業計画】※記載の講義順や内容は変更することもあります。

第1回 ガイダンス・「南紀熊野の特徴を考える」 教育学部 此松昌彦

今までの講義から南紀熊野の特徴をいろいろな視点から説明し、他地域との違いを考えてもらいます。

第2回 「2011年の紀伊半島大水害における和歌山県内の土砂災害と河川災害」 システム工学部 江種伸之

本講義では紀伊半島大水害で発生した土砂災害と河川災害の概要を解説するとともに、特に深層崩壊や土石流などの発生メカニズムについて分析した事例を紹介しします。

第3回 「「空港型地方創生」～南紀白浜空港を起点とした南紀熊野活性化～」 非常勤講師 森重良太(株)南紀白浜エアポート

南紀熊野の地域資源をどのように磨いて商品化するのか、どのように発信すれば誘客や地域振興に繋がるのか、民営化された空港会社を取り組む南紀熊野の活性化事例を通じて一緒に考えましょう。

第4回 「桜島の資源を活かしたジオパークのソーシャルビジネス」 此松昌彦(ゲスト:福島大輔氏 NPO法人桜島ミュージアム)

南紀熊野ジオパークで必要な商品は何か。地域資源を活かしたツアーや地域資源の商品化について学びます。

第5回 「地域資源を商品化しよう」 観光学部 竹林浩志(ゲスト:永山卓也氏 ローカルビジネスコンサルタント)

南紀熊野には多様な地域資源があります。それを商品化するために必要なこと、伝え方をみんなで考えます。

第6回 「熊野地域を持続可能にするために必要なこと」 観光学部 出口竜也(ゲスト:藻谷浩介氏 (株)日本総合研究所)

必要な地域づくりとともに熊野の未来を考えます。

【到達目標】

紀伊半島の産業について考え、自らのことばで語るができる。またそれらの興味に基づいて、自ら文献等を調べることができる。

【教科書】

特に定めません。基本的には適宜、講義ごとに資料を配布します。

【参考書】

「観光立国の正体」藻谷浩介、山田桂一郎著 新潮新書

講義時に適宜、紹介します。(学部開放授業受講者用シラバスには記載されません。)

【授業時間外学習】(学部生用には必須、学部開放授業受講者用は任意。共通でも可)

紀伊半島の郷土や産業のニュースについて関心を持ちながら集めておいてください。

地域でどんなことが話題になっているのか整理しておいて下さい。復習と自主的な学習が必要です。

【履修上の注意・メッセージ】※記載の内容は変更することもあります。

基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自で地形地質・生物が地域の暮らしにどうつながるのか、熊野らしい商品とは何か、これからの熊野を考えて、理解を深めるようにしてください。講義は1回完結です。

会場は串本町の潮岬にある南紀熊野ジオパークセンターです。交通は串本駅からバス(潮岬線:終点の観光タワー下車)があります。

※基本的に授業は対面での実施を予定しますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。